

# 安部ちゃんの米 会津喜多方訪問記

7月23日、去年に引き続き、会津喜多方の『安部ちゃんの米』の生産者、安部一浩さん(安部一浩さん)に会って米の生育状況を視察してきました。



稲の様子を調べる安部さん

## 田圃の環境

会津喜多方は磐梯山と飯豊山に囲まれた会津盆地の北部に位置します。飯豊山を源流にした河川とその伏流水により、米作りをしているため、水不足の心配は全くありません。今年も、良質の減農薬・減化学肥料栽培のお米が採れそうです



減農薬・減化学肥料栽培の承認証



清らかな山の湧き水の用水路



田圃のタニシ



たまたまに米に入ってるマメ科の植物の種

## 田圃見学

安部さんの自慢の田圃でとれた米が、山田屋に入荷します。とてもおいしい米で、農法は、昔ながらの田に稲を鋤き込んで土を作るとても手間のかかる農法です。この時期まだ穂は出ていませんでしたが、今年も期待できそうな、元気のある稲たちでした。



安部さんと

## JAS 有機栽培

今回の訪問で有機栽培に取り組んでる生産者、鈴木恒雄さんのお話も聞くことができました。まず、有機栽培は、除草剤をはじめとする農薬、化学肥料は使用できませんので、紙マルチ農法(紙マルチ農法)といって、田圃に45日程経つと自然に分解されてしまう紙のシートを敷き詰め稲を植えるところだけ穴を開け植える。雑草は紙が邪魔して生えてこられない。このような農法です。肥料は、もちろん自然の独自の堆肥を使用してるとのこと。内容は、落ち葉、大豆カス、大豆の茎、臭いを押さえる炭化させた籾殻、発酵を促すヌカ、福島名物身しらず柿のシブ、そば殻の粉末、等。無駄にするものはありません。完熟堆肥のせいかわいもあまりしませんでした。

## 安全だが効率悪い

紙マルチも、田圃の状況で敷きむらができる。その隙間に、雑草がはえる。有機農業はそれとの戦いだ。一般の田圃と比べると、見た目は美しくない。鈴木さん曰く『それこそが、有機の田圃の特徴だ。』あまり雑草がひどいと、機械では無理なので、人力で手で刈って手入れしたり、止むを得ず一般米として損覚悟で出荷したりリスクが大きいそうです。だからある程度の価格になってしまうのもわかる気がします。



鈴木恒雄さんと



鈴木さん独自の堆肥



有機米の田圃は見た目が悪い



雑草との戦い

ほかにもこんな所に行ってきました。

## 桐の博物館

桐下駄がいっぱい。会津は桐の名産地でもある。



積み上げられてるのは下駄の原料です



軽くて履き易い桐下駄